

# 被災地を継続支援

## 茅ヶ崎で市民ら「T A J」設立

「第6回平塚商業まつり」が6日、平塚駅北口の商店街(紅谷町、明石町)で行われる。市商店街連合会の主催。「いいもん」を堪能してもらおう。店街の食材を使った逸品を紹介する「魅力つけ市」と題し、平塚のグルメフェアでは、フラの商業の魅力をアピールする「いいもん」を堪能してもらおう。

東日本大震災の被災地でボランティア活動を行うバスパックで知り合った市民らがこのほど、市民活動団体「Team Aid for Japan」しゅうなん茅ヶ崎災害ボランティア(TAJ)を設立した。独自に被災地への継続的支援を行うほか、地元での災害を想定したボランティアセンターの設置訓練も視野に入れている。

### 震災ボランティアが縁

### 地元でもいざに備え

茅ヶ崎市社会福祉協議会が主催するバスパックは6月から9月まで約200人

(リピーターを含む)が参加。宮城県南三陸町や岩手県釜石市などがれきの片付けなどを行ってきた。「自分たちが被災したときはどうしたらいいのか」。TAJ代表の久我真さん(49)は計4回参加。活動を共にした仲間たちと過ごす行き帰りのバスの中で、自然と今後の活動について話が及んだという。



ボランティアを通じて知り合った市民が設立した団体の代表を務める久我さん  
—茅ヶ崎市役所

被災地での活動を通じ、災害時にいかに即効性のある組織を立ち上げられるかが復旧・復興の鍵だと学んだ。「災害が起ってから『はじめまして』では遅い。ボランティアの経験者が集まれば、地元で災害が起きた際も素早く対応できる」と、バスパックの参加者のうち約30人が10月21日のTAJ発足会に参加。現在は約60人がメンバー登録しているという。

ボランティアの人たちを受け入れる被災地のボランティアセンターの運営形態も地域によってさまざまだった。社協が一元管理するところもあるが、市民活動団体やボランティアと自治体がうまく連携して運営しているところもあり、地域性が色濃く出ている。久我さんは「災害時の茅ヶ崎のボランティアセンターのイメージがまだつかめない。防災訓練と同じように、ボランティアの受け入れ態勢やマッチング方法などのシミュレーションが必要」とし、将来的には市や市社協と連携してボランティアセンターの設置訓練などを行う構想を描いている。

特にユニークなのが「アンチエイジング」をテーマにした4階の楽友サロン。有料でジム機器がそろった

### 「いわし」も行う。

まつりは午前11時から午後4時まで。荒天時は13日に延期。

### 6日に112商店が露店も

(熊谷 和夫)

委員会事務局 ☎0463(2)1090。



### 映画館を改装

### ライブ館誕生

藤沢駅北口の商店街

全国でギターなどの教室を展開する「新堀ギター音楽院」と「国際新堀芸術学院」が、藤沢駅北口の遊行通り4丁目商店街に、市民が集うことができるユニークな施設「新堀ライブ館」をオープンした。10月30日に行われた記念式典では、地元商店街から「町の起爆剤となしてほしい」と期待の声が寄せられた。

同施設は、地下1階、地上4階建て。映画館だった建物を買取り、改装した。ギター教室はもちろん、市民に開放されたライブハウスやホール、レコーディングスタジオを完備している。

特にユニークなのが「アンチエイジング」をテーマにした4階の楽友サロン。有料でジム機器がそろった